

| | | | |
|-----------|------------|----------|-------|
| 事業名 CD | 0108020201 | 道路橋梁維持事業 | |
| 細分化した事業名 | | | |
| 事業担当課室 CD | 300200 | 建設課 | 整理コート |

〈事務事業の位置づけ〉

| | | |
|-----------------|-----|------------------|
| 第6次長期総合計画での目的体系 | 大項目 | 心地よい定住環境のあるまちづくり |
| | 中項目 | 便利な生活のための都市基盤の整備 |
| | 小項目 | 道路の整備 |
| 関連する個別計画等 | | 根拠条例等 |
| 関連する事業 | | |

〈事務事業の概要〉

| | |
|--|---|
| 事業の目的 (何のためにするのか) | 市が管理する道路橋の耐用年数を予防的修繕で延伸させ、従来の対症療法的な修繕・架け替えから、予防的な修繕・架け替えへと転換を図り、大規模修繕を抑制し、財政負担の増大を防ぐことを目的とする。 |
| 事業の対象 (誰・何を対象にするか) | 橋長5m以上の橋梁 |
| これまでの改善経過 | 目視による通常点検からコンサルタントによる精度の高い調査点検及び修繕計画の策定 |
| 事業の手段 (どんなやり方(手法)で) | 〈実施・運営方法〉 □市 ■委託 □補助金 □その他() 専門知識のあるコンサルタントへ業務委託し、その橋梁点検に基づき長寿命化修繕計画を策定する。その計画の内容については、一般に公表する。 |
| 事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか) | 管理橋梁の把握・諸元整理を元に策定された長寿命化修繕計画を基本とし、橋の損傷程度による優先順位付けを行い、限られた予算の中で効率的な補修補強もしくは架替計画をつくり管理していく。 |

〈投入費用及び従事職員の推移〉

| | | 19年度 | 20年度 | 21年度 | |
|------|----------------------|------------------|-------|---------------------|-----------|
| A | 事業費 (千円) | | | 15,435 | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | 7,950 | |
| | 県支出金 | | | | |
| | 市債 | | | | |
| | その他 | | | | |
| | 一般財源 | | | 7,485 | |
| B | 担当職員数(非常勤 職員E) (人) | | | 0.24 | |
| C | 人件費(平均人件費×E) (千円) | 0 | 0 | 1,638 | |
| D | 総事業費(A+C) (千円) | 0 | 0 | 17,073 | |
| *参考 | | H21)市民1人当りの事業コスト | 532 円 | H21)市民1人当りの行政サービス費用 | 579,596 円 |

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

| | 指標名 | 指標の算出方法 | 実績値 | | |
|------|---|--|------|------|------------|
| | | | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
| 活動指標 | 点検業務委託発注数 修繕計画策定業務委託数 | 調査及び点検橋梁数 長寿命化修繕計画策定橋梁数 | | | 57 0 |
| 成果指標 | 橋梁点検数 長寿命化修繕計画策定橋梁数 | 橋長5m以上の橋梁点検数 長寿命化修繕計画策定橋梁数 | | | 57 0 |
| 効率指標 | 管理橋梁数に対する点検済橋梁数(%) 管理橋梁数に対する計画策定橋梁数(%) | 点検橋梁数/管理橋梁数(204橋) 計画策定橋梁数/管理橋梁数(204橋) | | | 27.94 0 |

〈事業を自己評価〉

| | | | |
|--|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか) | <input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 橋梁点検は専門知識を持った技術者が行うことで適正なデータが得られる。また、橋の健全度、損傷度が数値化され正確なデータ収集が行われる。 | | |
| 成果 (意図した成果が上がっていますか) | <input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 点検調査により橋の損傷度の把握が容易にでき、データの蓄積が適正になされた。 | | |
| 効率性 (コストを見て効率的ですか) | <input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 標準的な業務委託であるが、さらにコスト削減に努めより精度の高いデータ収集を行う | | |
| 総合評価 | <input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成 | | |
| 今後の事業展開 | <input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり | | |
| 改善・改革案 | 改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか) | | |
| | (1) 中長期的 平成25年度までに橋梁点検及び修繕計画の策定を行う。 | (2) 23年度 橋梁点検及び修繕計画の策定を行う。 | (3) 22年度 橋梁点検及び修繕計画の策定を行う。 |
| | 21年度の改善計画 精度の高い点検を行い、収集したデータを蓄積していく | | |
| 21年度の改善結果 調査・点検によって収集されたデータを管理できた。 | | | |
| 市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 今後、橋梁点検結果及び修繕計画を一般に公表(市ホームページに掲載)し、情報の共有化を図る。 | | | |
| 課長所見 | 点検調査により橋の状態を把握し適正に管理することは、通行者及び通行車両の安全確保のため必要であるため今後も実施していく | | |